

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年3月25日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4671400150
法人名	医療法人 浩愛会
事業所名	グループホーム ひまわり苑
所在地	鹿児島県 垂水市 錦江町 1番240 (電話) 0994-31-6166
自己評価作成日	平成27年5月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成28年2月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

錦江湾に面した場所にあり、桜島がよく見えます。
ホーム内は手作りのものを多く取り入れ、家庭的な雰囲気をだせるように工夫をしています。季節ごとの行事も必ず行っています。
スタッフの能力が引き出せるように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○ホームは、市街地に近接した母体医療機関や介護老人保健施設・小規模多機能ホームなどの関連施設と隣接して建てられている。母体医療法人との連携は緊密なものがあり、十分な支援体制が築かれている。各種の行事や緊急時の対応など関連施設と相互に連携・協力できる体制が整い、利用者や家族の安心につながっている。また、管理者や職員は常に理念を認識して家族や利用者個々の気持ちや意向を大切に、利用者の思いに寄り添ったより良いケアの実現を目指している。

○新しい試みとして、法人全体で事例発表会を企画・開催して、垂水市の行政や多くの福祉施設に出席して頂いている。この発表会でホームは、「ターミナル・ケア」に関しての事例発表を行っている。また、法人全体で職員に対する研修に非常に熱心に取り組んでおり、研修体系も整備され計画的に実施され、受講した職員もレポートで感想や反省点を個々に記録している。これらを知識や技術の向上に活かしながら、利用者個々に寄り添ったケアへの反映に努めている。

○管理者や職員は日常のケアに際しての利用者の思いや意向の気づきを大切にしておき、管理者の主導でブレイン・ストーミング法を活用して、利用者個々の気持ちについて気づきを中心に十分に話し合い、それらをシートに整理してケアに反映できるように全員で真剣に取り組んでいる。更に、職員個々が主体となった研修も企画してスキルアップにもつなげている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事業所が開設時に職員全員で作った理念である。地域密着型サービスに位置付けられた時点で再度話し合った。会議の時には理念の再確認を行い、統一されたケアが行われるようにしている。	職員全員で作った職員の思いを反映したわかりやすい理念を掲げ、利用者がゆったりと楽しく、自由に、そしてその人らしく暮らせるように、気持ちに寄り添ったケアの実現に取り組んでいる。法人の研修やホームのケア会議の際に理念の意義を振り返り、さらに理解を深めるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	住宅地と離れているので地域との連携が難しい部分もある。地域振興会の会員になっており地域の清掃活動等の参加もしている。地域の方も、散歩や買い物の時は気軽に声をかけて下さる。また、見学や研修等の受け入れも行っている。	町内会に加入しており、ホームの夏祭りや敬老会、クリスマス会、避難訓練等に地域の方々に参加頂くとともに、地域の文化祭や海岸の清掃活動等に参加して積極的に交流を図っている。また、実習生や見学並びに地域の踊りのボランティア等の受け入れも行っている。散歩や買い物の際には地域の方とふれあい、利用者の知人の来訪も多い。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	相談は随時いろいろな場所で行っている。行政と協力して研修の受け入れ等行っている。また、民生委員会などにも出向き話をすることもある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者からいろいろな意見を貰いそれを実践に生かすよう努力している。	会議はホームの行事等を写真入りで紹介した資料を準備して、ご家族代表や地域の民生委員・市や地域包括支援センターの職員等が参加して定期的に開催されている。利用者及びホームの現況報告や行事・問題点等について意見交換がなされ、委員からの助言や提案を業務改善やサービス向上に役立てている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	いろいろな機会をとらえて話をするようにしている。相談事項や質問などにきちんと対応してもらっている。	市の担当者への訪問の機会は多く、また、ホームの運営推進会議や家族会への来訪時に意見や情報の交換を行い、より良い協力関係を築くように努めている。市が主催する地域包括ケア体制づくり事業に沿ったホームの活動には多くの地域の方々への参加も得られ、市が行っている研修に関連するホームの見学受け入れなど積極的に連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人内の身体拘束廃止委員会に参加し、どのような事が身体拘束になるのか、それによる弊害はどのような事があるのかなど勉強をし取り組んでいる。	法人全体やホーム内で、高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会を実施して職員の理解を深めるとともに、法人の身体拘束廃止委員会では実際に起こりそうな事例も想定して対応についての話し合いも行っている。職員は連携して見守りの強化や気づきの徹底に努め、特に言葉による拘束や気持ちの押さえつけがないように、日々お互いに確認し合いながら、その人の気持ちに沿った支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の研修会で毎年の虐待防止の勉強会を行っている。ホーム内では特に心理的な虐待（言葉による暴力）が行われていないか職員同士でも注意し合うようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	すべての職員が内容が理解できるように、会議の中で勉強会をしている。ある程度の事は、家族に対しても説明ができるようにしている。法人としても、行政からも勉強会の講師として来てもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に時間をかけて説明をしている。特に入居後におこるリスクの問題やターミナルの希望は必ず聞くようにしている。家族の思いも十分聞くようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会や運営推進会議で意見を出してもらうようにしている。家族会は年に2回行っている。家族がいつでも誰でも相談できるような雰囲気づくりに努め、出た意見は会議等で話し合っている。	利用者の思いは日常会話や表情の見守りなどで把握に努め、ご家族とは来訪時や年2回の家族会の際に話しやすい雰囲気作りに努めて多くの意見を頂くようにしている。また、運営推進会議に参加されるご家族代表にも意見の集約をお願いしている。職員は内容を共有しながら、必要な対応は日々の申し送りや毎月のケア会議等で話し合い、ケアに具体的に反映させ、ご家族にも必要な報告をしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体の会議、ユニット毎の会議で職員に意見や提案を聞いている。個別には職員の時間を見て話をするようにしている。(2～3ヵ月に1回話を聞き、代表者に報告している。月に1回ある管理者会で意見や提案を出している。	管理者は職員の気づきや提案、意見を大切にしており、必要な対応は日々の業務の中や毎月のケア会議及びユニット会議で十分に議論してケアへの反映につなげている。また、その効果についても検証して必要な修正を行っている。利用者の様子やホームの取組等については、ホーム便りや来訪時の対話・電話等でご家族にも連絡している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は頻繁にホームに訪れ、入居者の健康状態も気にかけている。職員がやりがいを持って働けるように資格取得の話も積極的に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>本人の希望や資格、経験年数等を考慮して年間の研修計画を立てている。また研修報告は報告書を提出するとともに会議の際報告するようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近くの事業者と交流会を行い、利用者だけでなく職員同士も話ができる機会を作っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族と事前に話し合い、本人の様子や今までの生活の様子、思いや悩みを聞き取る。本人ともよく話をし信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時は特に家族の話に口をはさまずに聞くことを心がけている。その話の中でも家族の悩みや思いと本人の意思が違う場合は区別して判断する。いつでも気軽に話ができるような雰囲気作りを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時の困っていることや不安に思っている事に対しては、ホーム内で出来ることはすぐに行い、困難な時には職員間で話し合い、いろいろな意見や方法を出し合い、家族にも説明して行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側、される側と言う意見をなるべく無くしホームに足を踏み入れたら自分の家、自分の家族だという意識を強く持ち、日々関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には来られた時や便りなどで報告している。家族の思い（親を思う気持ち）に配慮しながら伝えるようにしている。行事の参加やレクレーションに参加したり、居室でゆっくり過ごされる事も多い。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣のユニットに遊びに来られたかたでも、声をかけていただくようお願いしている。外出や外泊は家族と行っている。	入所時の聞き取りをはじめ、ご家族や利用者との会話などから利用前の地域との関わり、馴染みの人間関係等を把握して、墓参りや一時帰宅・買い物や近隣のドライブ等への同行及び地域の方々とのふれ合いも可能な限り支援している。また、ご家族をはじめ知人や友人の来訪も多く、ゆったりとくつろげるように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係の変化を見逃さないよう気を付けている。（本人のつぶやき等）また、関係が悪化する前に職員が間に入り支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたかたは定期的な面会に行きその後の様子を把握するようにしている。退去された家族も他の利用者の面会に来てくれたり、その後の相談も受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中で把握し職員同士が共通理解できるようにしている。意思疎通が困難なかたに対しては、家族と話し合い情報をもらって把握に努めている。また、独自のシートを作り本人に気持ちに近づける様話し合いを行っている。	日々の暮らしの中で利用者の思いや希望の把握に努め、本人の暮しにどのような対応が最良であるかをご家族とも話し合っている。毎月のケア会議では職員の気づきを出し合い、本人の気持ちや視点に立って意見を交わし、「どうしてもええ嬉しいか」を考えて、できる限り本人の気持ちに寄り添った最善のケアとなるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時はもちろん話を聞くが、それ以降もいろいろな話が出てくるので、記録に残したり申し送りなどでスタッフが情報を共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活の中で職員の気づきや、新しくできたこと、今までにできていたのに出来なくなった事に注目し小さな変化も職員全員で共有している。また、個々の生活のリズムも大切にしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や本人には意見を聞くようにしている。アセスメントやモニタリングは全職員で行い、ケアプランに反映させている。	ご家族の来訪時に担当者会議を開き意向や希望の把握に努めている。主治医をはじめとした関係者とも確認を取り、職員全員で十分な意見交換を行って職員の意見やアイデアも反映させた利用者本位の介護計画を作成している。ケアの経過は「ケアプラン実績記録」に細かく記入され、計画の見直しや修正に適切に活用されている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録、ケアプランに対する実績記録、排尿・排便・睡眠時間チェック、レクリエーションの記録などを行っている。計画の見直しのときはすべてを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な外泊・外出にも臨機応変に対応している。緊急で通院が必要な時も柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や消防関係とはある程度連携がとれている。ボランティアで踊りをしてくれるサークルも来てくれるようになっていく。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人と家族の希望を聞いている。医療法人なのでそれ以外のかかりつけ医が多いが、それ以外のかかりつけ医を希望される家族は付き添って受診したり、往診に来てもらっている。	利用前の受診の経過を十分に把握して、母体病院をはじめとした本人や家族が希望するかかりつけ医の定期的な往診を適切に支援している。専門医の受診はご家族にお願いしているが、母体病院の主治医はホームを頻りに訪れて利用者の状況を確認しており、受診状況や対応は関係者が情報共有して家族とも適切に連絡が取られている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな変化も見逃さないように気を付けており、気づきがあった場合はすぐにGHの看護師に相談している。利用者の状況もよく理解しているので情報の共有ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必ず情報提供し入院の受け入れがスムーズにいくようにしている。利用者も環境が変わると混乱するので早い段階から早期退院にむけてMSWや担当医師にアプローチを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の時に家族のターミナルケアに意向を聞くようにしている。 今までの所ターミナルケアは行っていない。	重度化や終末期のケアについては、ホームで対応できる方法について「ターミナルケア指針」を定め入所時、また、必要時には改めてご家族に説明して同意を得ている。利用者の段階に応じて本人やご家族と話し合い、母体病院とも連携しながら実際に看取りも行っている。法人の事例発表会ではターミナルケアについての発表も行い、ホーム内では勉強会も実施している。今後は看護師による研修も予定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防による心肺蘇生等の講習会を受けている。全員が対応できるように会議の時に勉強会を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難訓練を年に3回行っている。隣の小規模多機能ホーム・GHとも連携し近隣の人たちの参加もある。それ以外でも避難経路の確認や連絡網の整備、非常食の準備も行っている。家族会でも報告している。</p>	<p>年3回地域の消防署や住民の協力を得ながら消火訓練・避難訓練・救命講習を行うとともに、隣接の関連施設である小規模多機能ホームやグループホームと合同の自主訓練も実施している。災害に備えて自動通報装置やスプリンクラー等の設置のほか、食料や飲料水等の備蓄も十分であり、母体病院をはじめとした近隣の関連施設との連携も十分に図られている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いはその都度注意をしている。また、声の大きさや声のトーンにも注意するように指導している。まずは本人がどうしてほしいかを考え、言葉かけを行うように気をつけている。	利用者の人格を尊重し、日常ケアで尊厳やプライドを損ねるような言葉かけや対応を行わないよう職員は方法を共有して見守り支援している。認知症ケア等の留意点についてなどの研修及びマニュアル整備も充実を図り、ケアに確実に反映させている。また、利用者の各種の記録保管や居室の保護にも徹底した配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は常に本人が何ができるのか見極めようと努力している。できないからさせないのではなく、できるように工夫して支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の1日の流れは作っているが、ひとりひとりのペースを尊重して支援できるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	身だしなみは自分の好みでできない方は職員が工夫して支援している。美容院に行かれるかたもいるので支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえや片づけなど一緒に行っている。庭の畑で育てた野菜が食卓に上る事もある。職員は一緒に食事をとり話をしながら楽しく食事できるように配慮している。	菜園での野菜の収穫や下ごしらえ、後片付けなど利用者と一緒に行い、季節の食材を用いて利用者の好みもメニューに反映し、手作りの温かい食事を提供している。庭やテラスでのお茶会、季節の行事食や誕生会等の特別食、バーベキュー大会、クリスマス会の手作り料理、手作りのおやつなど楽しみにつなげる多くの工夫も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士に定期的に栄養バランスなど指導してもらっているひとりひとりの状態に応じて、DM食・ワーファリン食・高血圧食・腎機能食等工夫して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の能力に合わせて支援している。必要のある方は歯科往診をお願いしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を作りひとりひとりの排泄の状態を把握し、尿意のない利用者にも誘導を行っている。誘導の時はプライバシーにも注意するようにしている。尿とり等の使用も個人に合わせて工夫している。	居室2部屋につき1つのトイレが設置されており、ご家族からの聞き取りや排泄チェック表の適切な活用で利用者個々のリズムを把握して、昼夜を問わず可能な限りトイレで排泄できるように支援している。これらの結果はケアプランにも反映し、言葉使いをはじめ利用者の気持ちに沿った丁寧な対応に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足にならないように注意している。また、便秘気味の利用者には、オリゴ糖やヨーグルト等で排泄がスムーズになるように取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は毎日午前に行っている。ただし、本人の意思や、体調は考慮している。失禁等あったときは随時おこなっている。	体調や希望に応じて清拭やシャワー浴の場合もあるが、原則として1年365日入浴は可能である。利用者の健康状態や皮膚等の観察、安全面にも十分配慮し、管理者や職員は利用者とゆったり会話して入浴を楽しんで頂けるように努めている。入浴を拒否される場合には、職員の交替や繰り返し声かけも工夫して気分転換を図っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の生活の中で安心して時間が持てるよう工夫している。居室以外でも安心して休める場所も作っている。ひとりひとりの睡眠時間やパターンを知り、それに合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は、職員全員がすぐに見れる場所に保管してある。また、薬が変更や追加になった時は申し送りノートにて周知が図れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者のそれまでの経験を生かし出来る事や役割を持ってもらうようにしている。(茶碗を拭く、洗濯物たたみ等) コーヒーが好きな方にはいつでも飲めるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩は可能な限り行くようにしている。買い物なども一緒に行っている。家族もお墓参りや外食など連れていかれる。	ご家族からの情報に加え、個々の利用者の好みや習慣は丁寧に聞き取り、近隣の散歩や買い物、ホームの菜園や花壇の手入れ、またドライブや一時帰宅・墓参り等に出かけている。また、地域の文化祭、季節の花見や関連施設との様々な交流など、可能な限り多くの支援を行い外出の機会を楽しんで頂いている。時にはご家族と通院やドライブ・外食のほか、盆や正月・法事などで帰宅される機会もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し少額のお金を自分で持ってるかたもおられる。お金を預かっているかたも、買い物に行くときは自分で支払うようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話は希望があればいつでもかけられるようにしている。贈り物などがあつた時は必ず電話を入れ本人と話をしてもらったり、お礼状と一緒に書いたりしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	どこでもくつろげるように工夫している。室内の装飾も季節感を取り入れ、居室は個人の好みや使いやすさに合わせて家具を置いている。	リビングや廊下はゆったりとしたスペースで明るく、室温や換気調節にも十分に配慮がなされて、利用者にとって不快に感じる音や匂いもなく気持ちよくくつろげる環境である。周囲の壁には柔らかみのある落ち着いた感じの布製の手芸品がほどよく飾られており、管理者や職員が何より大切にしている家庭的な雰囲気が作り出されている。また、天気の良い日には庭やテラスでお茶や会話が楽しめるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下の奥に座る場所をつくったり色々な場面を想定して居心地の良い場所づくりを行っている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居の時に家族とよく話をし、本人のなじみの物を持ち込んでもらうようにしている。入居後でも必要な物があれば一緒に自宅に取りに行ったりしている。</p>	<p>管理者や職員は各居室の清潔の維持には十分に気配りし、その人らしく落ち着いて暮らせるように支援している。ホームが準備したものはベッドとエアコンのみで、本人や家族の希望に沿って、使い慣れた身の回りのものを自由に持ち込んで頂いて、自分の部屋と感じられるような環境づくりに配慮している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室の位置やトイレの位置など判りにくかったり、間違えやすいような場所には大きく表示するなどの工夫をしている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない